



いたびつ 板櫃 <校訓> 真理の探究 自主躍進



令和5年12月18日(月)発行
校長 栗原博巳
北九州市小倉北区白萩町8番1号
HP: www.kita9.ed.jp/itabitsu-j/

<学校教育目標>
自立・共生～自立心にあふれ、他を思いやる心をもった生徒の育成～
<目指す生徒像>
① 「時を守り、場を清め、礼を正す」生徒(凡事徹底)
② 自ら考え、正しく判断し、進んで学習や諸活動に取り組む生徒(自立)
③ 思いやりの心を持ち、協力し合って集団生活の向上に努める生徒(共生)
④ 与えられた仕事に対し、役割を果たすことのできる生徒(責任)

第75回人権週間12月4日(月)～12月10日(日)

板櫃中学校のみなさん、担任の先生から聞いていると思いますが、毎年、12月4日から10日までの1週間は、「人権週間」といって、人が生まれながらにもっている権利についてしっかりと考える期間になっています。12月6日は人権の授業を行いました。1年生は「日本の差別」について、2年生は「障がいを負った高校生の話」、3年生は「社用紙の移り変わりから見える差別」について学びました。そして、12月10日は世界人権デーです。世界中の人が人権について考える日になっています。「人権週間」は世界共通で、今年で、75回目になります。「人権週間」を簡単に言えば、みなさん一人一人が、人として大切にされているかを、いつもよりもっと気にして過ごす1週間ということになります。



人は、生まれながらに誰もが自由で平等で、一人一人、全ての人大切な人です。だから、誰が偉くて、誰が偉くないとか、何かができるから偉くて、何かができないから偉くないなどと、人を差別するのは、許されないことです。板櫃中学校のみなさんはどうですか？人のいやがることを、したり言ったりしていませんか？自分と違うからと人をからかったり笑ったりしていませんか？人は一人一人違って当たり前です。誰一人として同じ人はいません。お互いを認め合い、相手の気持ちを大切にしてください。

学校では、差別のことを「いじめ」と言います。校長先生は、いじめに打ち勝つには、みなさんのたくさんの「思いやりの気持ち」を集めることが大切だと思っています。「思いやりの気持ち」これは、人間にしかない温かくて素晴らしいものです。

そのために大切なことは、「気付き、考え、行動する」ということです。「気付く」というのは、相手の気持ちに気付くこと、友達の痛みに気付くことです。気付いたら、次に自分はどうすればよいかを考えること、そして最後に、行動することです。みなさんの全員が「気付き、考え、行動する」ことを忘れなければ、板櫃中学校は、「思いやりの気持ち」が一杯の素晴らしい学校になります。

学校生活の中で、みなさんで考え、行動し、その中でできることや楽しみを見つけてください。学校に通えることに感謝しながら、笑顔を忘れず、板櫃中学校全員で頑張りましょう。今日は人権週間における大事な話でした。



地域から素敵なお礼の言葉が届きました！

昨日、素敵なお話が地域から届きました。地域の方の家の猫が数日前からいなくなり、探していたそうです。どうしても見つからなくて、チラシで呼びかけていました。そのとき、板櫃中の女子の生徒2名が通りかかり、その方の猫を見つけてくれたそうです。

「家族同様にしていた猫が死なずに済みました」と本当に感謝しておられました。「生徒さんの名前を聞いておらず申し訳ありません」ということもおっしゃっていました。



このような何気ない行動の中こそ、本当のやさしさと思います。見返りを求めないやさしさに校長先生も感動しました。「心当たりのある生徒は担任の先生または校長先生まで」と呼び掛けたところ、2年生の南さんと土橋さんが申し出てくれました。帰り道にチラシを受け取り、しばらく歩いたら、その猫を見つけました。土橋さんが猫が逃げないように見守り、南さんがその方を呼びに行ったそうです。2人の機転が利いた、素早い行動に拍手です！

校長先生がいつも言っているように、板櫃中の生徒は全員優しい生徒ばかりです。この2人の行動は板櫃中の生徒全員ができた行動だと思います。これからもやさしさを大切に過ごしてください。

世界人権宣言とは